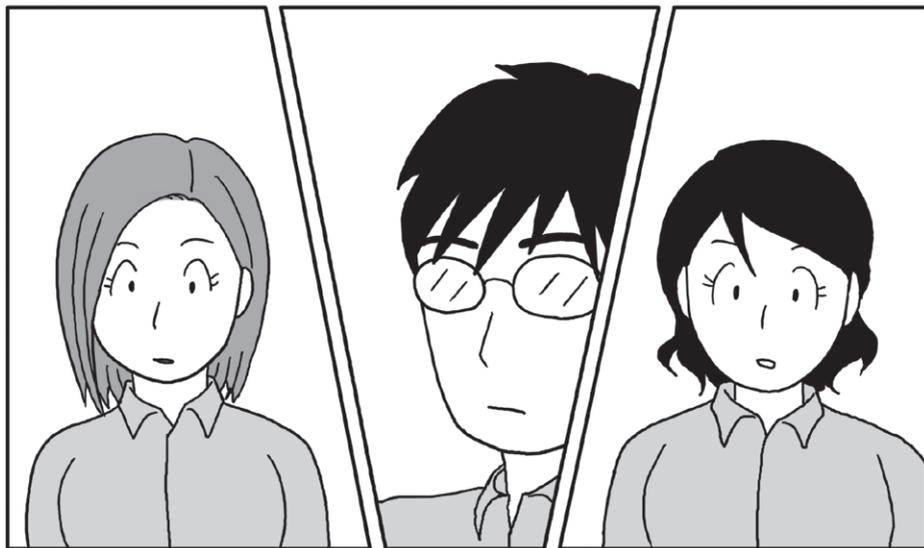
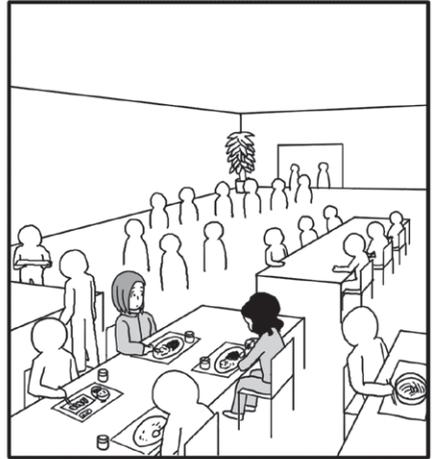
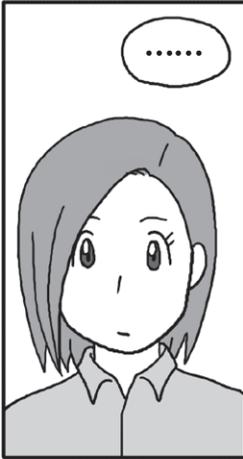


5-1 「実験」×「解析」

菊山さんの学生時代のように、実験の経験がある人は熱解析を行う場合にも目のつけどころが鋭いことが多いようです。実験と解析の間を正しく補うことができたなら、熱解析のことを机上の空論だと揶揄する人もいなくなるはずですね。

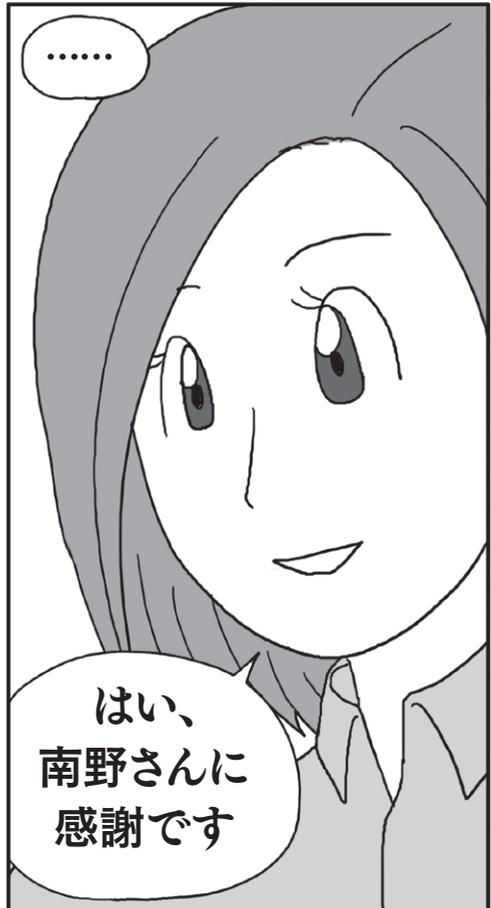








数時間後…



●月●日(水)

今日は気が多かった。

解析に生じるさまざまな誤差要因を理解する中で無意識に、
相対精度にばかり着目していた。

実測値と合わない場合に、付与条件に原因を求めるのも間違っ
てはいないけれど、そのことと、絶対精度を追求することを放
棄することは全く別だ。

熱解析を行う設計者が間違えにくく使いやすいソフトをつくるの
は久保さんや美藤さんにお任せすればいい。

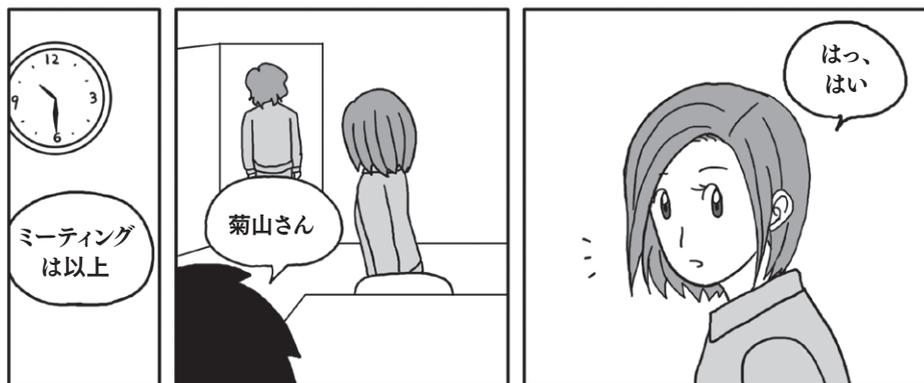
その熱解析環境をつくりあげる自分は、他部門へのアピールも
しなければいけない。その際、「絶対精度は無視してくださいね」
ではなかなか認められないだろう。

設計とCAEの両方を理解して、その間を繋ぐところが自分の
役割だと再認識した1日だった。



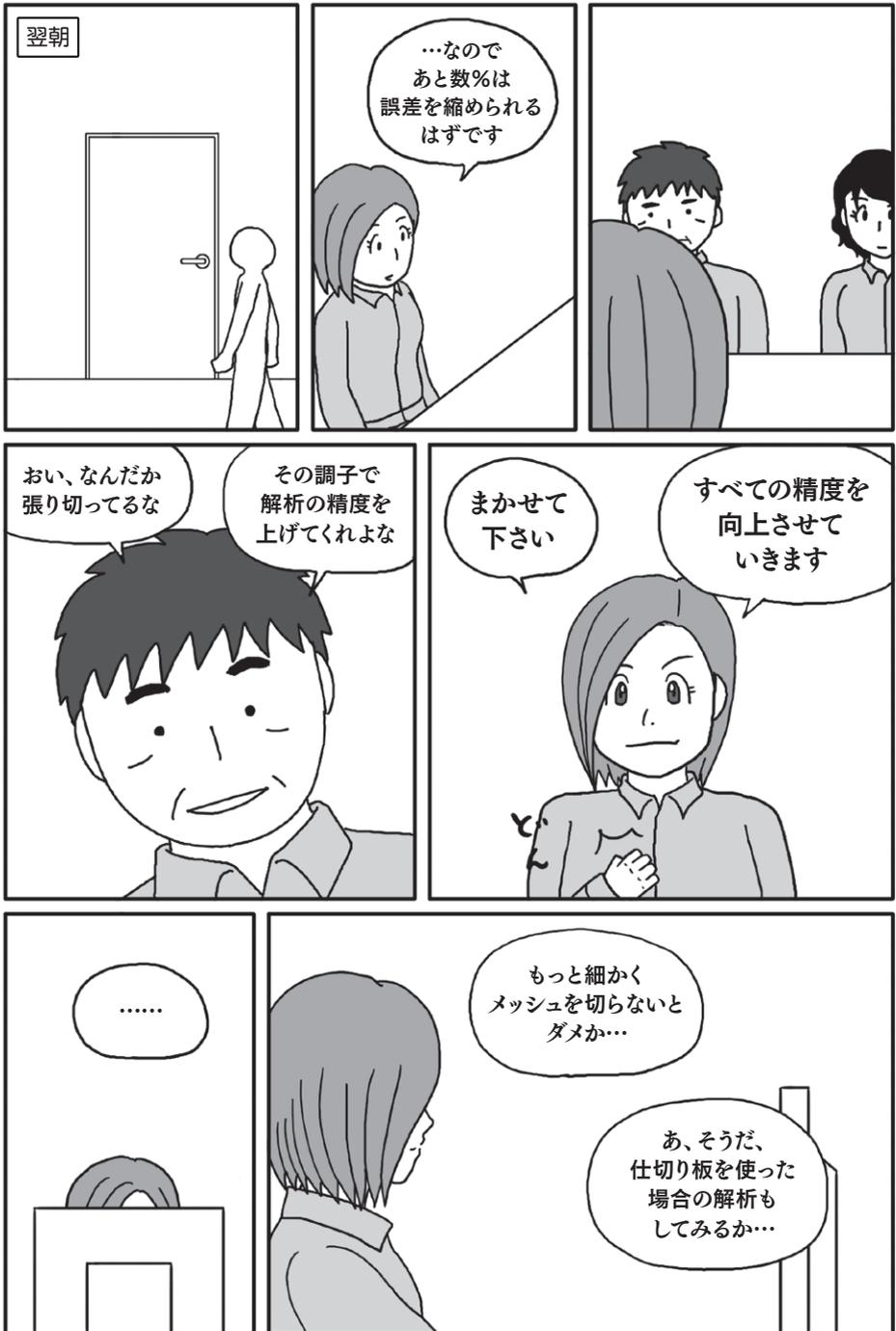
5-2 気づいて、受け入れる。

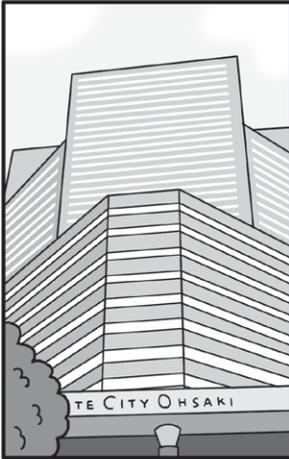
外側から見たら偶然のように見えることも、内側から見たら必然であることも多いですね。「セレンディピティ（偶然の幸運をつかむ力）」を手に入れるポイントも、行動して、気づいて、それを受け入れることのように思います。

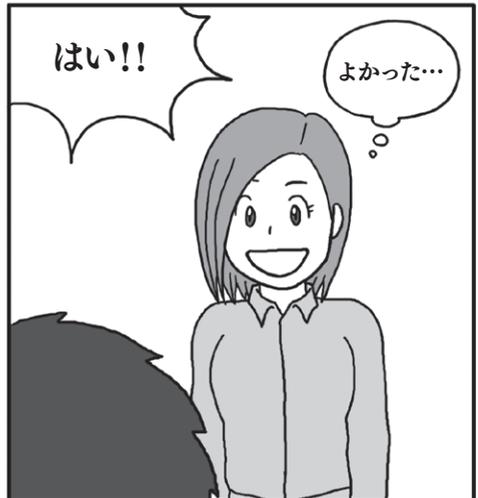












私、熱解析はじめました。

制作 ● ジャパンスタイルデザイン株式会社

© 2015 Software Cradle